

みらかホールディングス株式会社 2019 年 3 月期 決算説明会 主な質疑応答

[日 時] 2019 年 5 月 14 日 (火) 16:00~17:00

Q-1

- 18 年度の計画は当初から非常に厳しいものだと考えていた。19 年度計画はどういった前提か。

A-1

- 18 年度は、開業医ならびに院内検査事業の顧客との取引において、契約締結後から売上に寄与するまでの期間が想定よりも長くかかったこと、更には価格下落が想定を上回ったこと等から、計画未達となった。これらの反省を踏まえた上で計画を立てている。
- なお、今期は現時点で約 8 割の顧客との契約を締結しており、価格下落影響は計画通り 1.5% 以内に収まると見込んでいる。

Q-2

- 来期も開業医や健診で数量増が予想されるが、これらの売上は利益率が低い。ミックスの悪化はどう考えるか。

A-2

- 単価が低いのは事実であるが、そのような点も考慮した計画である。
- 一方、比較的高単価な特殊検査の業績への寄与は、新しい検査分野がどの程度まで伸長するかにより異なる事から、計画へは保守的に織り込んでいる。

Q-3

- CLT の人員が 18 年 3 月末に比べて増加している。削減のペースが想定よりも遅いのではないか。また、19 年度の人員削減による増益効果は。

A-3

- 効率化による人員数の削減が計画よりも遅れているのは事実。ただし、一定数の退職は恒常的に発生するのでグループの将来的な成長のため、新卒採用も強化していく。
- 今後の人員数については、効率化・自動化を行うことで、現状より若干マイナスの人員数で事業を拡大する。
- 新ラボ稼働後は、従来の業務に従事していたスタッフを院内事業やグループ内の他の事業へ配置転換していく。

Q-4

- 平安の件は期待が持てる一方、海外事業はリスクが高い。本案件の見通しは。

A-4

- 海外展開において日本企業が単独で進出しても成功しないケースは確かにあり、現地を良く知るパートナーと組むことが成功の鍵。

Q-5

- IVDの19年度計画について、日赤単独の影響はどれくらいか。また、大口顧客への投資とはどういったものか。

A-5

- 日赤との契約終了による影響とそれ以外の増収増益要因等を加味した上での計画数字を開示している。